

各位

病害虫防除所長

平成25年度病害虫発生予察技術情報資料（第2号）の送付について

ワタアブラムシに対するネオニコチノイド系殺虫剤の感受性検定 ～ネオニコチノイド系殺虫剤感受性低下アブラムシの発生！～

本年、現地ピーマンほ場で採取されたワタアブラムシについて、農業技術センター昆虫担当で感受性検定を行った結果、本県においても他県と同様、ネオニコチノイド系殺虫剤に対する感受性の低下が疑われる事例（下表）が発生しました。

今後、防除指導にあたっては、薬剤の選択に注意するとともに、有効な薬剤に対する抵抗性発達を回避する観点から、同一薬剤、同一系統の連続散布は避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布に努めるよう、指導をお願いします。また、微生物農薬や気門封鎖型薬剤、天敵昆虫等を使用するなど、作期全体の防除体系の見直し、再検討の指導もお願いします。

表 ワタアブラムシに対するネオニコチノイド系薬剤の殺虫効果（処理1日後、虫体浸漬法）

	希釈倍率	佐川町	四万十町	感受性個体群
アクタラ顆粒水和剤	3000	37	—	92
アドマイヤーフロアブル	4000	—	4	100
バリアード顆粒水和剤	2000	—	16	100
ベストガード顆粒水溶剤	1000	5	14	96
モスピラン顆粒水溶剤	4000	8	24	100
対照(クミテン5000倍)		10	4	17

注) 全ての薬剤をクミテンで希釈。クミテンは実際の死虫率。